東口再開発に関する見直し方針≪概要版≫

福島市·福島駅東口地区市街地再開発組合

コンセプト

にぎわい

- ・用がなくても立寄りたくなる
- ・集客力の高い催しが開催できる
- ・施設に閉じずまちに開けている

『にぎわい・文化・つながりが生まれる《たまご》 =FUKUSHIMA EGG=』

・産学民が使いやすい

- ・多彩な目的に使える
- ・演出の自由度が高い

文化

つながり

- ・交流を生む環境がある
- ・市外からも人が集まる
- ・福島産品をはじめ、多彩なものと接する

市内外の多彩な人々が、集まり、混ざり、触発しあい、にぎわい・文化・つながりを生み出していく。 わくわくする未来が、つぎつぎと生まれる。

そんな豊かなたまごが福島駅前に誕生するよう、多様な利用シーンの実現を目指す。

事業概要

(1)施設構成

公共棟(保留床) ・・・・・・フレキシブル・ホール(最大1.500人程度収容。3分割利用が可能な平土間

式で、一階で大屋根広場とつながる)、会議室、スタジオ等、まちなかリビン

グ、大屋根広場、屋上広場など

商業・事務所棟(権利床)… 飲食・サービス・物産店舗、創造的ワーク・交流スペース(交流機能が充実し

たインキュベーション施設、シェアオフィス、コワーキングスペース)など

住宅棟(保留床) …… 分譲マンション100戸程度

駐車場棟(権利床) …… 駐車場500台程度、駐輪場200台程度、権利者店舗

(2)スケジュール 令和10年度内の竣工、早期の供用開始を目指す

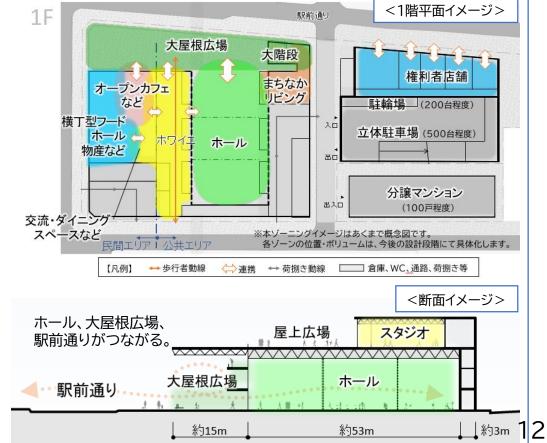
- (3)事業費の見込みと経済効果 ※設計前でありプラン・仕様・設備が固まっていないため、数値は参考
- ①全体事業費 550~580億円程度
- ②保留床(市施設)取得費 250~270億円程度
- ③市施設管理運営費 年間6~7億円程度
- ④経済効果 40~50億円程度(再開発エリア全体。ホール稼働率は85%として試算。)

配置・断面イメージ



ホール、大屋根広場、駅前通りを一体的な空間として活用したり、駅前広場やまちなか広場と連携したりできる。

まちに開かれ、まちとつ ながる。



東口再開発に関する見直し方針《概要版》

主な見直し

(1)にぎわい・文化・つながりが生まれるより多様なシーンを実現

3分割利用が可能な「フレキシブル・ホール」や大屋根広場、屋上広場、まちなかリビング、 オープンカフェや横丁型フードホール、創造的ワーク・交流スペースで、より多様なシーン を実現

(2)まちに開かれ、まちとつながる

駅前通り、大屋根広場、ホールが地続きでつながり、これまでにない新しい空間が出現

(3)ワンストップ型から連携型へ

会議(コンベンション)、宴会(バンケット)、宿泊(ホテル)の各機能を周辺施設と分担・連携 ※バンケット機能導入に向け引き続き検討・調整

今後の課題

劇場機能の確保

本格的な舞台芸術や高度な音響性能が必要な演奏会等は困難 市内の既存施設・機能を整理し、どのように確保していくか検討

市施設の運営管理

… コンセプトを共有でき、コンベンション誘致や先進的なイベント、市 民イベントの企画支援、地域の情報発信力の強化など、意欲的に まちづくりを進められる運営管理者を速やかに選定

街全体の都市力向上 … 市民、行政、経済界などが一致団結して、常在人口等の活力基盤 を強化しながら、エリア価値を向上させる投資呼込み策を推進

見直しの考え方

- 広域的拠点としての意義
- → これまでと変わらない広域的拠点としての位置づけ
- 街なか再牛の起爆剤
- → 大規模な民間投資の魅力に乏しい現状を変えるための公共投資。市施設や物産等による集客、 住宅・オフィス供給による常在人口増加、駐車場・駐輪場整備による回遊性など「人が住む」 「人が働き学ぶ」「人が集まる」「人が流れる」環境づくりに強いインパクト
- ○コロナ禍を経た変化への対応
 - ➡ 駅周辺の会議場やバンケット不足への対応、働く場の新たなコミュニケーション空間
- まちに開かれ融合する施設、人々の憩いと交流の場の拡充
- ⇒ まちと一体となった催事展開、まちなかリビング・大屋根広場・屋上広場等、 まちなかや周辺地域への回遊
- ふくしまの魅力の体感と情報発信
- → ふくしまの食、物産、わらじまつりなど観光客向け情報発信
- 社会的要請への対応
- → ユニバーサル・デザイン、ZEB(省エネ性能)、防災安全性能

